エルモンヒラタカゲロウ

Epeorus latifolium（カゲロウ目ヒラタカゲロウ科）

現地撮影

エルモンヒラタカゲロウの幼虫

生態情報

l　からだの特徴

からだの大きさが9㎜、はねの長さが 11 ㎜ぐらいのカゲロウです。からだの色は薄い茶色です。はねは透明で、前ばねには名前の由来となるL型にみえる紋があります。幼虫は 15 ㎜ぐらいの大きさで、平たいからだをしています。目はからだの上のほうについていて、尾は2本です。

l　すみ場所

北海道・本州・四国・九州に分布しています。きれいな河川の上流から下流まで広くすんでいて、幼虫は水の中で、成虫は陸上で生活しています。幼虫は流れの速い場所からみつかり、石をひっくり返してみると、石の裏面を動き回る様子を見ることができます。

l　生活のようす

成虫は年2回以上発生し、5～7月と9～10 月ごろにみられます。成虫の寿命は数日と短く、夜に明かりに飛んできます。幼虫は平たいからだをしているため、流れの速い中でもすばやく移動することができます。幼虫は水の中の藻類や動植物の破片などを食べますが、成虫はなにも食べません。

参　考

河川環境をみるうえで指標となる虫で、「きれいな水」にすむ種類とされています。ヤマメなどの渓流釣りの餌として、「チョロムシ」という名で親しまれています。

ウエノヒラタカゲロウ

Epeorus uenoi　（カゲロウ目ヒラタカゲロウ科）

（写真準備中）

生態情報

l　からだの特徴

からだの大きさが 12～14 ㎜ぐらいのカゲロウです。からだの色は茶色から赤褐色です。はねは透明です。幼虫は8～10㎜ぐらいの大きさで、平たいからだをしています。目はからだの上のほうについていて、尾は2本です。

l　すみ場所

北海道・本州・四国・九州に分布しています。きれいな河川の上流にすんでいて、幼虫は水の中で、成虫は陸上で生活しています。幼虫は流れの速い場所からみつかり、石をひっくり返してみると、石の裏面を動き回る様子を見ることができます。

l　生活のようす

成虫は年２回以上発生し、６～８月と９～11 月ごろにみられます。成虫の寿命は数日と短く、夜に明かりに飛んできます。幼虫は平たいからだをしているため、流れの速い中でもすばやく移動することができます。幼虫は水の中の藻類や動植物の破片などを食べますが、成虫はなにも食べません。

参　考

河川環境をみるうえで指標となる虫で、「きれいな水」にすむ種類とされています。ヤマメなどの渓流釣りの餌として、「チョロムシ」という名で親しまれています。

ヒガシカワトンボ

Mnais pruinosa costalis（トンボ目カワトンボ科）

（写真準備中）

生態情報

- **からだの特徴**

お腹（はねのつけねからお尻の先まで）の長さが 35～46 ㎜、はねの長さが 31～41 ㎜ぐらいの細長くて足の長いトンボです。はねは無色透明です。

- **すみ場所ほ**

静岡県東部・山梨県・長野県・新潟県より東の本州と北海道に分布しています。おもに平地から山地の水辺に植物が生育するきれいな川にすんでいて、幼虫（ヤゴ）は水の中で、成虫は陸上で生活しています。幼虫は水辺の植物の根もとなどからみつかります。

- **生活のようす**

成虫は年1回、4～7月ごろにみられます。成虫は水辺をほとんど離れず、水辺の植物や石の上にとまっています。幼虫は水の中の小さな生きものを、成虫は小さな虫を捕まえて食べます。

参　考

春の比較的早い時期にみられるトンボです。長い距離を飛ばないため簡単に捕まえることができます。きれいな川にすんでいるため、河川環境と関わりを強く持った虫のひとつです。

クロサナエ　*Davidius fujiama*　（トンボ目サナエトンボ科）

現地撮影

生態情報

- **からだの特徴**

お腹（はねのつけねからお尻の先まで）の長さが 30～37 ㎜、はねの長さが 25～28 ㎜ぐらいのトンボです。からだの色は黒色で黄色の紋があります。

- **すみ場所**

本州・四国・九州に分布しています。おもに山地の渓流にすんでいて、時に大きな川にもみられ、幼虫（ヤゴ）は水の中で、成虫は陸上で生活しています。幼虫は流れの緩やかな場所の植物の生えている所やよどみなどからみつかります。

- **生活のようす**

成虫は年1回、５～7月ごろにみられます。羽化したばかりの成虫はまわりの草むらなどで過ごしますが、しばらくすると渓流に戻ってきて、水辺の植物や石の上にとまっています。幼虫は水の中の小さな生きものを、成虫は小さな虫を捕まえて食べます。

参　考

サナエトンボは、「早苗（さなえ）」の時期みられるトンボの意味で、この仲間の多くは5～6月に成虫がみられます。渓流にすんでいるため、河川の渓流環境と関わりを強く持った虫のひとつです。

ムカシヤンマ　*Tanypteryx pryeri*　（トンボ目ムカシヤンマ科）

現地撮影

ムカシヤンマの成虫

生態情報

l　からだの特徴

お腹（はねのつけねからお尻の先まで）の長さが 44～54 mm、はねの長さが 40～47mm ぐらいの大型で太めのトンボです。からだの色は黒色で黄色の紋があります。

l　すみ場所

本州・九州に分布しています。すんでいる場所は、池や川などの水の中ではなく、平地から山地の斜面やガケのわき水がしたたり落ちるような場所にすんでいます。幼虫（ヤゴ）は湿ったコケや土の中にトンネルを掘って生活しています。

l　生活のようす

成虫は年1回、5～6月ごろにみられ、羽化した場所をほとんど離れません。成虫の動きはおそく、とまっていることが多いため、簡単に捕まえることができます。幼虫の期間は長く、3～4年かかると考えられています。幼虫は水の中の小さな生きものを、成虫は小さな虫を捕まえて食べます。

参　考

ジュラ紀（2～1.5億万年前）に生きていた大昔のヤンマ類と同じ特徴を持った種類と考えられています。日本には「ムカシ」と名前のついたトンボにはもう一種類「ムカシトンボ」がいて、「生きた化石」と呼ばれ、山地の渓流にすんでいます。「長野県版レッドリスト」で「絶滅危惧Ⅱ類」に選定されています。

オニヤンマ　*Anotogaster sieboldii*　（トンボ目オニヤンマ科）

撮影：大野　豊

生態情報

l　からだの特徴

お腹（はねのつけねからお尻の先まで）のが長さ 60～86 mm、はねの長さが 53～65mm ぐらいの日本最大のトンボです。成虫は、胸からお腹にかけて、黒地に黄色の紋があります。また、眼がエメラルド色の強い輝きをもっています。

l　すみ場所

北海道・本州・四国・九州・南西諸島などに分布しています。幼虫（ヤゴ）は水の中で、成虫は陸上で生活していて、幼虫は河川、小川、湧水地、湿地などのいろいろな水の中にすんでいます。

l　生活のようす

成虫は年1回、7～8月ごろに多くみられます。羽化したばかりの成虫は、山の斜面や林縁の開けた場所にみられることが多く、また、林縁や川の上を往復して飛ぶ姿がよくみられます。幼虫は水の中の小さな生きものを、成虫は小さな虫を捕まえて食べます。

参　考

その大きさからギンヤンマとならんで子供たちに人気のあるトンボです。また、いろいろな水辺にすんでいることや肉食性でいろいろな虫を餌とすることから、水辺の環境を代表する虫のひとつにあげられます。

アキアカネ *Sympetrum frequens* （トンボ目トンボ科）

撮影：大野　豊

生態情報

- **からだの特徴**

お腹（はねのつけねからお尻の先まで）の長さが 23～31 mm、はねの長さが 26～34mm ぐらいのトンボです。いわゆる「赤トンボ」と呼ばれるトンボの仲間で、成熟すると鮮やかな赤色になります。羽化したばかりのものは褐色です。

- **すみ場所**

北海道・本州・四国・九州などに分布しています。幼虫（ヤゴ）は水の中で、成虫は陸上で生活していて、成虫は平地から山地のいろいろな場所に普通にみられますが、幼虫は水田や池沼にすんでいます。

- **生活のようす**

成虫は年1回、６月ごろに羽化しますが、夏の間は高い山などへ移動して過ごします。秋季になると再び水田や池沼などに移動し、卵を産みます。幼虫は水の中の小さな生きものを、成虫は小さな虫を捕まえて食べます。

参　考

秋になるとからだが赤くなる、いわゆる「赤トンボ」と呼ばれるトンボは20種類ぐらいいますが、数の多い種類の一つです。アキアカネは夏に高い山へ移動し、秋になると平地におりるので、夏にトンボの集まる高い山では、集まってきたトンボにマークをつけて放し、秋にどこまで飛んでいくかを調べたりしています。

オオクラカケカワゲラ *Paragnetina tinctipennis* （カワゲラ目カワゲラ科）

（写真準備中）

生態情報

- **からだの特徴**

からだの大きさが 15～22 mmぐらいの大きなカワゲラです。からだの色は黄褐色から黒褐色です。幼虫は30mmぐらいの大きさで、平たいかたちをしています。長い触角と尾を持っています。

- **すみ場所**

北海道・本州・四国・九州に分布しています。河川の上流にすんでいて、幼虫は水の中で、成虫は陸上で生活しています。幼虫は流れの速い場所からみつかります。

- **生活のようす**

成虫は年1回発生し、5～8月にみられ、夜に明かりに飛んできます。はっきりした生活のようすはわかりませんが、一般にはカワゲラの仲間の成虫の寿命は2週間ぐらいと短く、餌も食べません。一方、幼虫の期間は2～3年ぐらいと長く、水の中の小さな虫などを食べていると考えられています。

参　考

河川環境をみる上で指標となる虫で、「きれいな水」にすむ種類とされています。カワゲラの幼虫はからだの大きい種類が多いため、よく渓流釣りの餌に使用されます。

キリギリス *Campsocleis buergeri* （バッタ目キリギリス科）

撮影：大野　豊

生態情報

- **からだの特徴**

からだの大きさは 40～60 ㎜ぐらいの大きな種類です。からだの色は緑色のものと茶褐色のものがあり、緑色のほうがやや多いです。

- **すみ場所**

本州・四国・九州に分布しています。草地にすんでいて、河原や土手、海岸などの背丈の高い草の生育する場所を好みます。

- **生活のようす**

成虫は年1回、鳴く虫の中では比較的早く6～9月ごろにみられます。鳴き声は「チョン・ギース、チョン・ギース」で、昼間でもよく鳴きますが、鳴くのはオスだけでメスは鳴きません。肉食性が強くどう猛で、他の虫を捕まえて食べます。

参　考

草地の鳴く虫として昔からなじみの深い虫のひとつです。河原などで鳴き声はよく聞かれますが、うごきが素早いため姿はなかなか見られません。大きく強いあごを持っているため、かまれるとかなり痛いです。

カワラスズ *Dianemobius furumagiensis* （バッタ目コオロギ科）

（写真準備中）

生態情報

- **からだの特徴**

からだの大きさは8～11 ㎜ぐらいの小さなコオロギです。からだの色は黒褐色から黒色です。はねの長いものと短いものがあります。

- **すみ場所**

本州・四国・九州・対馬に分布しています。平地から山地に普通にみられ、おもに河原の植物がまばらに生えた砂や石の多い場所にすんでいて、石の下でみられます。

- **生活のようす**

成虫は年1回、8～10 月にみられます。鳴き声は「チリチャリチリチャリ・・・・・・」で、鳴くのはオスだけでメスは鳴きません。草の葉を食べます。

参　考

おもに河原にすんでいるため、河川環境と関わりを強く持った虫のひとつです。きれいな鳴き声ですが、小さなコオロギのためなかなかみつかりません。

エゾエンマコオロギ

Teleogryllus yezoemma　（バッタ目コオロギ科）

（写真準備中）

生態情報

● からだの特徴

からだの大きさは 20～25 ㎜ぐらいの大きなコオロギで、なじみのあるエンマコオロギによくにています。からだの色は黒褐色で、オスのはねの前のほうが黄白色に縁取らますが、エンマコオロギとの野外での区別は困難です。

● すみ場所

北海道と本州の中部地方より北に分布しています。おもに大きな川の河原の植物がまばらに生えた砂や石の多い場所にすんでいて、石の下などにみられます。

● 生活のようす

成虫は年1回、８～10 月にみられます。鳴き声は「チリリリ、チリリリ・・・・・・・」で、エンマコオロギより早く、切って鳴きます。鳴くのはオスだけでメスは鳴きません。草の葉を食べます。

参　考

おもに河原にすんでいるため、河川環境と関わりを強く持った虫のひとつです。しかし、川の工事などにより数が減っているため、「長野県版レッドリスト」で「絶滅危惧Ⅱ類」に選定されています。

カワラバッタ

Eusphingonotus japonicus（バッタ目バッタ科）

（写真準備中）

生態情報

● からだの特徴

からだの大きさは 25～43 ㎜ぐらいのトノサマバッタにかたちがにているバッタです。からだの色は灰色で、後ろばねの中央部に褐色の帯があり、その内側が鮮やかな青色をしているので、飛び時によく目立ちます。

● すみ場所

本州・四国・九州に分布しています。おもに河原の植物がまばらに生えた砂や石の多い場所にすんでいます。

● 生活のようす

成虫は年１回、８～９月にみられ、後ろ足と前ばねをこすりあわせて「カシャ・カシャ・・・・・・・」と音を出します。成虫は河原の砂や石の色とよくにていてみつけにくいですが、近づくとよく飛びます。草の葉を食べます。

参　考

おもに河原にすんでいるため、河川環境と関わりを強く持った虫のひとつです。しかし、川の工事などにより数が減っています。